



医長就任挨拶

藤が丘病院耳鼻咽喉科医長就任にあたって

藤が丘病院耳鼻咽喉科 医長 小林 斉

今年7月より昭和大学藤が丘病院耳鼻咽喉科の医長に就任した小林斉です。私は平成9年に昭和大学医学部を卒業し藤が丘病院に就職しました。以来19年間のうち2回(計2年半)ほど関連病院に出張しましたが、それ以外はずっと藤が丘病院で働いています。今年で藤が丘病院が開院40周年を迎えるので、その半分藤が丘病院にいます。



今まで藤が丘病院耳鼻咽喉科は、頭頸部癌と耳科学を中心に治療してきました。頭頸部癌は顔面の癌のため、治療するときに機能(嚥下や構音)や美容面を考えて治療しなければいけません。そのため当院では以前から化学放射線同時併用療法を行っており、良好な結果を残しております。耳科手術は、三邊リハビリ病院院長が医長のときから数多く行っており、現在は内視鏡と併用した手術もしています。甲状腺癌の手術治療、慢性副鼻腔炎や鼻腔腫瘍の手術も積極的に行っており、耳鼻咽喉科領域全般の手術を医局員全員ができることを目標に日々取り組んでいます。

手術治療以外では、睡眠時無呼吸症の検査・治療も行っています。ニュースでいろいろ取り上げられているように睡眠時無呼吸の患者さんは増加しています。入院で検査を行ったうえ、歯科と連携して治療しています。

また昨年、花粉症の舌下免疫治療が保険適応となりました。3年間続けることで花粉症が軽快するため多くの施設で開始しています。当院でも現在、他科と相談し開始する予定です。

耳鼻咽喉科は聴覚・嗅覚・味覚を扱い、子供から大人まで幅広い年齢層の方々の頭部・顔面を診療する科です。上記のことでなにかお困りの場合はいつでも相談してください。

医長就任挨拶

藤が丘病院整形外科医長就任にあたって

藤が丘病院整形外科 医長 神崎 浩二

暑い夏が過ぎ、朝夕の肌寒さで少しずつ秋の深まりを感じる今日この頃ですが皆様いかがお過ごしでしょうか。この度本年8月より昭和大学藤が丘病院整形外科の医長を拝命することとなりました。ここに医長就任のご挨拶を申し上げたいと思います。本年は昭和大学藤が丘病院も40周年という節目の年を迎えました。そのような節目の年に医長を拝命したことを誇りにも思



いますし大きな責任感も感じております。当院の開院と同時に黒木良克先生(現名誉教授)を初代医長・教授として整形外科がスタートし、渥美敬先生が平成8年に整形外科の医長に就任され、整形外科を牽引してこられました。また筒井廣明現スポーツ整形外科教授が藤が丘リハビリテーション病院の第3代の院長を務められました。平成13年に昭和大学横浜市北部病院が開院した際に、旗の台の整形外科と一緒に活動するようになり、平成26年に昭和大学江東豊洲病院が開院した際も同様に旗の台の整形外科と一緒に活動する場が広がっています。医局を構成する医局員も増大し、現在は医局員92名、同門会員111名に達しております。

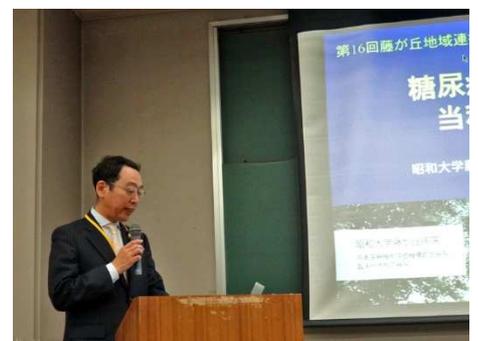
この40年で社会的環境も大きく変わってきております。高齢化社会が進み変性疾患や外傷の治療や研究のニーズはさらに高まり、健康寿命の重要性が叫ばれ、ロコモティブシンドロームのように活動性の低下する状態の予防と、整形外科領域の課題は非常に大きくなっていると考えます。それらを解決すべく人材の育成や組織の強化を行い地域医療に答える医療を目指し、医局員一同さらに研究、診療に力を注いで行く所存です。私は脊椎外科を専門とし臨床、研究に努めてまいりました。脊椎疾患は高齢者においては非常に頻度が高くQOLに直結する疾患であるため、さらに研鑽を積み後進を育てていく自負を持って努力する所存です。この歴史ある藤が丘病院整形外科をさらに発展させ、また旗の台の昭和大学病院はもちろん横浜市北部病院、江東豊洲病院との連携を深め、昭和大学の整形外科として大きく羽ばたかせることができると考えております。今後とも皆様のご協力を賜ればと思います。よろしく願い申し上げます。

第16回藤が丘地域連携フォーラム講演要旨

糖尿病診療の進歩と当科の病診連携

糖尿病・代謝・内分泌内科 教授 長坂 昌一郎

2009年のDPP-4阻害薬発売、2010年のメトホルミンの用量変更、GLP-1受容体作動薬発売、2014年のSGLT2阻害薬発売など、糖尿病診療は進化しています。2010年には新しい糖尿病の診断基準が施行され、HbA1cが「糖尿病型」に取り入れられました。2013年にはHbA1cによる3段階の血糖コントロール目標が策定され、個々の患者に即した治療目標の重要性が強調されています。



院内部署紹介
新病棟開設！！

藤が丘病院9階病棟

1型糖尿病は稀とされてきましたが、抗GAD抗体測定 of 浸透に伴い、緩徐進行1型糖尿病の頻度はかなり高いことが判明し(全患者の数%)、診断基準も策定されました。1型糖尿病の中でも、発症1週間前後でケトアシドーシスに陥る劇症1型糖尿病は、診断の遅れが生命予後に直結します。腹痛など消化器症状で受診することが多く、注意が必要です。

経口血糖降下薬は、インスリン抵抗性改善系、分泌促進系、糖吸収・排泄調節系に分類され、7系統の薬物が使用可能です。近年、スルホニル尿素薬(SU薬)に変わってDPP-4阻害薬の処方が増えています。安易に第一選択薬とする処方には異論もあり、メホルミンも第一選択です。この両薬剤に加えて、少量のSU薬・グリニド薬が2型糖尿病の経口薬治療の軸でしよう(週間医学界新聞3080号、拙著)。その他の薬物は補助的となりますが、それぞれ特性があり「適剤適処」が望まれます。一方、多剤併用でインスリン導入が遅れることも問題です。

当科では糖尿病患者さんの種々な問題について、特に入院が必要な症例を積極的に受け入れたいと思います。また歯周病など歯科の問題は、血糖コントロールや動脈硬化性疾患とも密接に関連します。当科としては「連携手帳」を活用した連携を考えていますが、不明の点は照会ください。また従来通り、内分泌疾患(疑い)の症例にも対応しています。当科で必要な検査や治療をした症例は、原則として逆紹介させていただきますので対応をお願いいたします。

院内部署紹介

ご存知ですか？ 総合相談センター

リハビリテーション病院総合相談センター

当院の総合相談センターでは、医療ソーシャルワーカーをはじめ、事務・看護・薬・栄養の各担当者が患者さん・ご家族、地域の関係機関からのご相談やお問い合わせに対応しています。患者相談窓口の受付もしておりますので、ご意見・ご要望や苦情など病院にお申し出になりたいことがあればお問い合わせください。

入院中に依頼を受けた患者さんには、医療ソーシャルワーカーが患者さん・ご家族とお会いし、リハビリ入院後の生活について意向を確認のうえ、必要な支援を多職種と連携しながら行っています。そのほか、病気やけがで治療・リハビリ中におこる様々な問題についてご相談になりたい場合は、総合相談センターで対応いたしますのでご利用ください。



相談受付時間

月曜日～金曜日: 8時30分～17時
土曜日: 8時30分～13時
直通電話 045-978-6121

※面談は予約制です。事前にご連絡ください。

9月から新たに開設となった9階病棟です。診療科は腫瘍内科・緩和医療科、消化器内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、皮膚科となっています。病床は個室・4人床の計30床となっており、広々とした環境で入院生活を送ることができます。窓からの見晴らしもよく、晴れた日にはスカイツリーや富士山を眺めることもできるので、患者さんやご家族の方よりご好評をいただいております。

病棟開設にあたっては各部署からスタッフが召集されており、それぞれ培った知識を共有しながら看護に取り組んでいます。当病棟には化学療法を受ける患者さんや終末期の患者さんも多く入院されており、認定看護師による勉強会や医師との定期的なカンファレンスを行い、患者さん・家族の希望に添えるよう努力をしています。今後も様々な知識をより深め、9階からの景色に負けないくらい素晴らしい看護を提供できるよう一同精進してまいります。



総合防災訓練を行いました

9月1日防災の日、全国規模の防災訓練と青葉区内の防災訓練の二本立てから成る総合防災訓練を行いました。

全国規模の防災訓練とは、政府が主導する大規模地震時医療活動訓練です。DMAT(災害派遣医療チーム)が仮想の被災地である神奈川県・東京都へ参集し、傷病者の受け入れ調整や患者搬送等の訓練を行いました。藤が丘病院DMAT隊も参加し、藤が丘病院には他県より多数のDMAT隊が集まりました。

全国規模の訓練と同時並行で行った青葉区内の防災訓練では、通信訓練、外来避難訓練、各部署被害状況報告訓練を行いました。通信訓練は、青葉区役所・青葉区医師会・市が尾カリヨン病院・横浜総合病院と合同で傷病者受入調整の訓練を行いました。通信機器はMCA無線という、災害に比較的強い無線機を使用しました。情報のやり取り時における課題や問題点を確認・整理することができ、今後の青葉区災害医療に貢献できる材料が集まりました。また、外来避難訓練では、模擬外来で外来中止の説明と避



難訓練を行い、実際に震災が起きた際にスタッフが慌てずに行動できるよう想定され得る事柄の洗い出しを行いました。

今回の訓練を構成した救急医学科佐々木准教授は、「院内の訓練だけではなく、国との合同訓練を行ったことで、当院の災害に対するとくみに対して意義があった」と今回の訓練を振り返りました。今後とも当院の災害対策にご理解とご協力のほどお願い致します。



藤が丘病院・リハビリテーション病院 合同ワークショップが開催されました

9月11日～12日、快晴の湘南にて、藤が丘病院・リハビリテーション病院合同ワークショップが開催されました。両病院の院長、副院長、看護部長、薬局長、事務部長をファシリテーターとして、今回は各診療科の医長・医局長、技師長、看護師長などが参加しました。様々な職種が入り交じる5つの班に分かれて、新規入院患者数を増やすために何ができるのかというテーマで討議と発表を重ねました。1・2班は定期入院患者数を増やす手段として地域への広報活動に着目しました。3・4班は緊急入院患者数を増やすためのER受診から入院までの導線について改めて吟味しました。5班はリハビリテーション病院の入院患者数を増やすために、藤が丘病院からの転院をより円滑に促す方法について新たな案を提示しました。最後に、小出学長よりご講演をいただきました。真剣に意見交換をしつつ、時には笑顔もあったこの時間が、藤が丘病院・リハビリテーション病院のさらなる発展に繋がることと期待されます。



ボランティアのエプロンを一新しました

今までは、ボランティアの方々には藤色のエプロン(こどもセンターはピンクの割烹着)を着用していただいております。しかし経年変化による劣化が目立ってきたので、9月1日よりエプロンを一新しました。藤が丘病院の初診受付と採血受付は、ソフトな感じのピンクのブロック



柄に、こどもセンターは、こどもたちの緊張を和らげるよう、ぞう柄をプリントしたブルーのエプロンになりました。また、リハビリテーション病院は、明るい雰囲気を出すチェック柄のブルーのエプロンになりました。

現在、ボランティアとして10代から70代まで17名の方々が活躍されています。藤が丘病院には14名、リハビリテーション病院には3名の合計17名(男性2名、女性15名)という布陣です。

9階病棟がオープンしました

平成27年9月1日より藤が丘病院9階病棟がオープンしました。病床数は4床室が7室、個室が2室の計30床で、消化器内科、腫瘍内科・緩和医療科、糖尿病・代謝・内分泌内科、皮膚科の4科で構成されています。



診療部門責任者は腫瘍内科・緩和医療科の市川度教授、看護部門責任者は佐藤優子師長です。病院の最上階に位置し、天気の良い日は窓から隣の公園の緑や、センター北にある阪急百貨店屋上の観覧車も一望でき、見晴らしのよい病棟です。今後も患者さんにとってより良い療養環境の整備に邁進してまいります。

藤が丘病院正面玄関スロープ廻りの 改修工事が完了しました

9月17日から9月24日のシルバーウィーク期間中に、藤が丘病院の正面玄関スロープ路面補修と、車路の白線引き直し工事を行いました。路面補修は、傷みのはげしかったスロープ登り口のコンクリートをはがして整地した後、再舗装を施しました。また、障害者用の駐車スペースを従来の正面玄関前から駐車場寄りに移動し、玄関前の車路を拡張して2車線とする車路の白線引き直しを行いました。これにより、正面玄関の送迎の乗り降りによる渋滞が解消するとともに、安全な障害者用の駐車スペースを確保することができました。



パラソルを設置しました

タリーズコーヒーのウッドデッキスペースに大型のパラソルを2台設置しました。今までウッドデッキスペースには屋根がなく、炎天下では使用する方も稀でしたが、パラ



ソルのおかげで陽を遮ることができ、屋外での快適な憩いの場を提供できるようになりました。天気のいい日には、ランチをしたり、コーヒーを飲みながら読書をしたり、日光浴をしたりと、お気軽にご利用ください。

美味しいお話し第10回

心もほっこり、炊き込みご飯

様々な食材が旬を迎える秋。秋刀魚の塩焼き、さつまいもの天ぷら、熟した柿、そろそろ鍋料理もいいなぁ…と頭の中は秋の味覚でいっぱいな今日この頃です。皆さんにとっての秋の味覚は何でしょうか？“旬の食材”とは少し離れますが、私は夏の暑さから解放され肌寒い季節になってくると、混ぜごはんや炊き込みご飯に惹かれてしまいます。炊き上がった時に立ちのぼるご飯や具材、お醤油の香りはなんとも食欲をそそります。旬の栗ごはんはおいしいけれど、生栗を1つ1つ剥くのはちょっと面倒ですし、1袋買うと持て余してしまうこともありますよね。そこで今回は、少しお手軽におき甘栗を使った中華おこわ風の炊き込みご飯を紹介します。紅葉鑑賞や行楽のお供に、おむすびにして持っていかれてみてはいかがでしょうか？



【中華おこわ風 甘栗の炊き込みご飯】

〈材料 3~4人分〉

米	2合	むき甘栗	50g
(あれば、うち0.5合をもち米に)			
にんじん	1/4本	椎茸	3個
焼き豚	50g	生姜	適量

〈調味料〉

オイスターソース	大さじ1	醤油	小さじ1
酒	大さじ1	砂糖	小さじ1
鶏がらスープの素	小さじ1	ごま油	小さじ1

〈作り方〉

- ① 米をといでおく。
 - ② にんじんはいちょう切り、椎茸は1cm角、生姜は針生姜に、焼き豚は細かめに切る。
 - ③ ①に調味料を加え、目盛りよりやや少なめに水を加える(水加減はお好みで)。
 - ④ ②を乗せて炊飯器で炊く。
 - ⑤ 炊き上がったら、ざっくりと混ぜて盛り付ける。
- ※お好みで干しエビ、鶏肉、銀杏など具材を変えてみてください。
- ※おむすびにするときは、具を小さめにしてラップを使うとうまくまとまります。

病院だより掲載用写真募集

病院だよりに掲載する写真を下記のように随時募集いたします。皆さんからの多数のご応募をお待ちしております。

記

テーマ : フリーテーマ

応募方法 : 写真データとお名前(イニシャル・ハンドルネーム可)、コメント(100字以内)を広報委員会までお送りください。

なお、紙媒体でのご応募はお断りいたします。

注意事項 : 被写体に人物が入っている場合は投稿についての承諾を得てください。

なお、写真は必要に応じて編集させていただきます。

応募先 : 広報委員会 f-press@ofc.showa-u.ac.jp

診療統計

2015年8月・9月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2015年8月	2015年9月	2015年8月	2015年9月
外来患者数	27,257人 (1048.3人)	27,042人 (1175.7人)	4,563人 (175.5人)	4,584人 (199.3人)
入院患者数	15,620人 (503.9人)	14,440人 (481.3人)	4,796人 (154.7人)	4,577人 (152.6人)
紹介率	87.5%	88.8%	44.4%	62.4%
逆紹介率	62.6%	59.6%	57.1%	73.7%

〈編集委員〉

高橋 寛	佐々木 春明	小岩 文彦	池田 裕一	磯 良崇	芳賀 ひろみ
辻本 さなえ	吉原 利栄	出川 美幸	大塚 幸彦	小宅 育代	岩井 譜憲
飯田八代枝	松尾 悠	高橋 良治	(順不同)		